

名所

を壹升と申也、其升を四ツに割、壹盃貳ツをば五合ト申し、三ツヲ七合五勺、四盃ヲ壹升と立申

〔和漢三才圖會六十九〕甲斐白嶺又云甲斐之嶺

後拾遺 何國ともかひの白ねは、えらね共雪降毎に思ひ社式部やれ

黒駒山 自此望富士山、向正南也、至吉田總名郡内、都留郡内而織出綾絹、呼稱郡内柳條

夢山名寄 都人覺束なさに夢山をみるかひ有て行歸らん

鹽山 指出磯古今 鹽の山指出の磯に鳴ちどり君が御代をば八千代とぞなく

山梨岡 綴古今 足引の山梨岡に行水の絶すぞ君を戀渡べき

穂坂牧 堀川百首 相坂のせきぢにけふや秋の田のほさかの駒をむつくと引公實

逸見御牧 在巨勢郡穂坂小笠原等、皆有牧出駒家集 都までなつて引は小笠原へみのみまき

の駒にぞ有ける貫之

〔甲斐名勝志〕甲斐八景 享保年中、柳澤侯依奏聞、勅許、

夢山春曙

中院大納言通躬卿

きのふまでめなれし雪は夢山のゆめとぞ霞む春のあけぼの

龍華秋月龍華山永慶寺、享保年中、柳澤侯所建立也、在山梨郡若窪村今廢、

武者小路參議實陰卿

名にしおは、峯なる秋の月やしる其曉の花のひかりも

富士晴嵐

入江民部權少輔相尙朝臣

吹おろすあらしを見せて一むらの雲もさはらぬふじのえら雪

惠林晚鐘

外山三位光顯卿

静かなる夕のかねのこゑき、て見れば心の池もにこらす

石和流螢

日野中納言輝光卿